

輝く介護

第27号

2014年(平成26年)
3月25日発行

特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構
連絡事務所 〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内
TEL0467(46)0788 Fax0467(46)0059
<http://www.kamashien.com> e-mail jimu@kamashien.com



かまくらスマイルフェスタ2013

平成25年11月23日に鎌倉生涯学習センターで、介護保険の仕組みやサービス内容の紹介と、児童・障害者・高齢者への虐待防止を呼びかけるイベント、「かまくらスマイルフェスタ 2013」が鎌倉市の主催で開催されました。介護関係では平成22年の「介護フェア」から4回目、虐待防止イベントとしては昨年の「すこやかフェスタ」に続いて2回目となります。今年のイベント開催に当たっては、当機構も協力団体として展示や催し物等に参加しました。

当日は朝から秋晴れで、イベント開始の10時には会場前に大勢の人が集まり、公立保育園保育士による太鼓の演奏で幕を開けました。その後もピロティではコマ回しなどの昔遊び、ホールでは介護劇やシンポジウム、そして地下ギャラリーでは介護教室や介護保険サービスに関するパネル展示が行われ、大勢の来場者でにぎわいました。



通所系事業所の展示コーナー



みらいふる鎌倉のコーラス



訪問介護事業者の展示コーナー



むかし遊び(紙芝居)

介護劇『最期まで その人らしく 輝いて』 劇団 The かまくら座 第2回公演

平成23年12月に旗揚げ公演をした劇団 The かまくら座が第2回公演を行いました。劇団 The かまくら座は、鎌倉市内のケアマネジャーやヘルパー、地域包括支援センターの職員など日頃、介護に携わっている仲間たちで構成しています。

今回は、これからの鎌倉でどこにでも起こりうる在宅での看取りや療養についてを取り上げ、ターミナルケアに関する内容的一幕物の劇に仕上げました。ガン末期の宣告を受けた本人、家族、取り巻く医療や介護の関係者とのやり取りから、最期まで、その人らしく輝いて、生き抜くための居場所を考えさせられるものとなりました。



かまくら地域介護支援機構では、平成25年度も様々な事業に取り組みました。その中から、主なものをご紹介します。

鎌倉市高齢者生活支援サポートセンター開設その後

平成25年7月に開設され、約9か月が経過した鎌倉市高齢者生活支援サポートセンターの現状をご紹介します。

平成26年1月までに合計4回の高齢者生活支援サポーター養成講座を開催し、毎回20名近くの市民が受講しました。

高齢者生活支援サポーター養成講座では、鎌倉市高齢者生活支援サポートセンター制度や公的サービスについて、また認知症の理解、実際の活動事例を知るなどの講義がありました。受講者のみなさんは、とても熱心に講義を聞き、具体的な質問が出て、関心の高さを感じました。

活動開始以来、毎月第1金曜日に高齢者生活支援サポーター会議を開いていますが、参加者も多く、ミニ学習で活動のスキルアップに努めています。

現在、65名の方が高齢者生活支援サポーターとして登録しています。これまでに生活支援の依頼数は30件を超えており、高齢者13名の方が生活支援サポーターの支援を受けています。

一人での外出に不安を感じている方がサポーターと一緒に外出する支援を受けて、映画観賞や、買い物ができるようになり、いつかお友達と外出できる日を楽しみにしています。また、息子さんのためにサポーターと一緒に食事の支度をすることに喜びを感じる方や、庭の花づくりを共に楽しんでいる方もいます。

高齢者のみなさんに毎日元気で安心して過ごしていただくための、家事や趣味のお手伝いをする生活支援の活動は、これからもっと必要になっていくものと考えています。

第4回食支援サポーター養成講座

かまくら地域介護支援機構では、平成25年度神奈川県から緊急雇用創出事業臨時特例基金補助金を受けて、食支援サポーター養成講座～食べることは生きること 今考えたい高齢者の[食]～を5回シリーズで開催しました。この講座の運営には、医療、福祉、介護の専門職等からなる<かまくら食支援研究会>の協力がありました。

この講座は今年度で4回目になりますが、毎回定員を上回る参加者があり延べ133名の方が受



講され、回を重ねるたびに[食]に対する関心の高まりを感じました。終了後のアンケートからも、食支援の大切さが分かった、現在の仕事や自分の親の介護に役立てたい、食生活や栄養について更に勉強したい等積極的な感想が聞かれました。また、現在職に就いていない方から、是非[食]に関する仕事に就きたい、将来的に[食]に関する仕事に就きたいとの意見があり、この講座が潜在的有資格者に対する就労へのアプローチになったと思われる。

第6回 鎌倉市認知症地域支援フォーラム～地域で自分らしく暮らすために～

平成26年1月18日(土)に、「医療法人森と海 メンタルホスピタルかまくら山」院長 岡田昇氏と「東京都健康長寿医療センター 自立促進と介護予防研究チーム」杉山美香氏から、認知症の現状とその予防についてのご講演をいただきました。

また、一般社団法人かまくら認知症ネットワークから認知症の方とボランティアでまち歩きをする「かまくら散歩」や町なかの落書き消しをする「かまくら磨き」の活動



と、鎌倉市立御成中学校ボ

ランティア部及び腰越中学校の生徒から福祉体験実習や認知症サポーター養成講座、「かまくら散歩」の体験の発表がありました。

地域や社会とのつながり、世代間交流の大切さを参加者・スタッフがともに学びとともに、認知症予防の大切さや、地域でいろいろな人が認知症のことを学びながら交流していることをお互いが理解し合えるフォーラムとなりました。



第17回医療と福祉のネットワーク会議

長寿社会を生きる ～長寿社会に求められる医療～

講師 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山弘子氏

平成26年2月25日(火)午後7時より鎌倉市福祉センターにおいて、長らく海外で研究されていた秋山弘子先生をお招きして、私たちが一番不安としているこれからの高齢者の医療課題についてお話を伺いました。先生は老年学を専門とされ、日本の急速な高齢化の進行から過去25年間にわたって日本の高齢者を取り巻く状況を調査研究し、現在は東京大学の横断的な学問領域での機関において、地域包括ケアシステム構築のための研究をなさっています。

講演では、千葉県柏市豊四季台における、「いつまでも地域で暮らすことができる社会づくり」を目指した地域包括ケアシステムの具現化に向けた様々な取り組みを紹介され、私たちが考えていかなければならないこれからの課題として、次のような2つを示されました。1つ目は、高齢者の8割が経験する、緩やかに老いていく虚弱期に対する医療をどのように考えるか、2つ目は「自分らしい旅立ち」のできる終末期医療、いわばエンド・オブ・ライフケアをどのようにしていくかについて、海外での話題を交えて話されました。

秋山先生は鎌倉市民ということで、これからの鎌倉の地域包括ケアを考える上で、今後医療と福祉のネットワーク会議にもご協力くださると伺い、私たちも心強く思っています。

施設紹介

鎌倉ケアホームえん(鎌倉市今泉 3-18-6 TEL : 0467-41-1320)

平成24年4月にオープンした鎌倉ケアホームえんは、1階が定員25名の小規模多機能型居宅介護、2、3階が各フロア定員14名の地域密着型有料老人ホームを併設した複合型施設です。建物のある場所はのどかな住宅街で、裏には四季を感じられる山が、近くには自然の癒やしスポットとして愛されている鎌倉湖があります。

ここでは、「住み慣れた地域で笑顔のある暮らしの為に」とスタッフ全員で考えた独自の理念があり、1階の小規模多機能型居宅介護では今までの生活の継続、自宅で生活するように時間を区切らないという事を心がけ、必要に応じて配食サービスを利用したり その時々ニーズに応えたケアを行っているそうです。また地域の方が気楽にいつでも遊びに来られるようにと1階では企業と協賛でオープンカフェを開設し、施設内では金茂華(洋画家)の優しさあふれる絵が飾られ、施設内を見学しながら展示も楽しめるように心配りがされていました。

毎月発行している<えんだより>は、温かい手書きのイラストが描かれ、ホームページ(<http://www.kamakura-en.com>)で見る事が出来るそうです。社長の吉田さんは、「思いではなく志が大事」とおっしゃっていました。吉田さんを先頭にとても温かい空気をかもし出している施設でした。



材木座あじさいの家 (鎌倉市材木座 2-10-12 TEL : 0467-24-0505)

材木座あじさいの家は、小規模多機能型居宅介護事業所として平成24年3月に開設されました。定員は24名で、その7割が材木座からの利用者です。篤志家に寄贈された400坪の土地には、美しい庭園と一戸建ての家屋を利用した施設があります。従来からの建物をバリアフリーに改築して利用、食堂、居間、和室は普通の家と変わらぬ雰囲気があり、落ち着いてゆったりとした時間を過ごせる環境が整いました。庭園はボランティアによって整備され、気候の良い時期には、リハビリを兼ねた散歩も楽しめます。利用者の在宅での生活を支えるために、訪問介護に特に力を入れており、通いと泊まりを組み合わせる柔軟な支援を行っています。通いでは皆で行う体操やレクリエーションの他、一人一人の希望を尊重し自由に過ごしてもらっており、和室で読書や書道をしたり、調理を毎回手伝う利用者もいます。近郊への外出や季節の行事も行い、利用者が楽しく過ごし、家族にも喜んでもらえるケアを提供することを心がけていると管理者の柏木さんは言います。介護度の高い利用者もいるため、医療との連携も進めています。地域の住民から介護に関する質問を受けることがあり、今後はより地域に溶け込んで相談のできる福祉の拠点となることを目指したいとのことでした。



編集後記 : これまで“輝く介護”は、創刊より12年が経ちました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝しております。

毎回、発行するたびに、読者の方から多くの反響があり、賛否両論ご意見をお寄せいただきます。私たち、かまくら地域介護支援機構では、“介護”には一つも同じ形は存在せず、介護を行う側にも、介護を受ける側にも、命の数だけ形があると考えています。そのため、立場の異なる方々から、介護にまつわる様々な情報をご提供いただいております。

これからも、皆様からいただく忌憚のないご意見を活かしながら、市民の皆様へ情報を発信し、鎌倉における介護の一端を担えれば幸いに思います。今後とも、“輝く介護”をご愛読下さいますよう、よろしく申し上げます。